

タイにおける「ヘルスツーリズム」に関する一考察 古式マッサージ学校と古式マッサージ店でのフィールド調査から

国際文化学部 3年 16AR103 片山 侑 (KATAYAMA Yu)

はじめに

タイ古式マッサージの研究は、従来、医療人類学の分野でなされてきた。たとえば、R. ゴールドは、『タイ古式マッサージータイ伝統医療の理論とテクニック』(2000)において、一般の人々や健康医療の専門家がタイ式医学療法におけるマッサージの分野に関する知識を得られるようにタイ伝統医学を概説したうえで、そのテクニックについて解説している。また、飯田淳子は、『タイ・マッサージの民族誌』(2006)において、タイ・マッサージの社会・文化的側面に焦点をあて、グローバルな動きの中におかれたローカル社会の人々のタイ・マッサージをめぐる営みを、チェンマイでの2年半にわたるフィールドワークに基づいて記述した民族誌を著している。グローバル化の進行に伴って、観光人類学の分野においても、ごく近年、小木曾航平による一連の研究、「癒しと健康のグローバリゼーションータイ・マッサージの観光医療化に着目して」(2013)、「伝統的健康法はいかにしてグローバルな健康文化となるか? : 外国人向けタイ・マッサージ学校の役割に着目して」(2014)など、新たな枠組による研究がなされ始めている。

報告者は、これまでタイを3回訪れたことがある。日本ではマッサージを受けると高価だが、タイでは比較的安価で受けられるという理由から、タイを訪れたときには、毎回、古式マッサージ店に通っていた。その折、多くの日本人観光客や現地在住日本人が古式マッサージ店を訪れており、中には、自ら古式マッサージ師の資格を取る人たちがいることを知った。また、大学での「文化人類学」「専門演習」などの授業で観光人類学について学ぶ中で、近年タイでは、ヘルスツーリズムや医療ツーリズムが盛んに行われ、古式マッサージがその資源として利用されていることを学んだ。古式マッサージは、観光客にとっての「癒し」となるだけでなく、観光客自らが古式マッサージ師の資格をとり、「癒される側」から「癒す側」へと転換を図ることにより、より「オーセンティックなタイ」を内在化している例も少なくないことがわかってきた。

日本のNPO法人「ヘルスツーリズム振興機構」によれば、ヘルスツーリズムとは、「旅行という非日常的な楽しみの中で旅行中のトラブルを回避したり、健康回復や健康増進を図ったりするものをさしており、旅をきっかけとして、旅行後も健康的な行動を持続することにより、豊かな日常生活を過ごせるようになる観光の一形態」である。観光立国を目指してきたタイでは、日本を含む外国からの観光客が増加し続けているが、近年、古式マッサージやエステの人気に着目したヘルスツーリズムが盛んになってきており、タイ古式マッサージ師の資格を取得できる体験型ヘルスツーリズムが盛んになってきている。

そこで、タイの伝統文化であり、近代医療の代替医療として注目されてきたタイ古式マッサージを、現代の観光産業資源として利用しようとするタイ政府の新たな観光政策に注目し、それがヘルスツーリズムの隆盛と連動していることに関心をもち、自ら、タイ古式マッサージ師の資格を取得しながら、同じ目的でタイにやってくる日本人や外国人に焦点を当てて、調査を行うこととした。そこで、タイ・バンコク都にある「ワットポー・マッサージスクール」において、自らタイ古式マッサージ師の資格取得しながら、そこにやってくる日本人（および外国人）観光客や現地滞在者にインタビューを試みてその実態を探り、新たな観光形態の一端を明らかにしたいと考えた。

1. タイの観光と「古式マッサージ」の位置づけ

タイ国政府観光庁（Tourism Authority of Thailand）によると、タイを訪れる観光客数は、1960年の8万人から次第に増加してきたが、2012年には2200万人を超え、観光部門は1982年以来、外貨獲得高のトップレベルを維持している。当初は、女性観光客に比べて男性観光客が多く、セックスツーリズムがタイ観光の重要な構成要素だった。1965年にタイ政府が駐留アメリカ軍と「休暇とレクリエーションに関する協定」を結んで、アメリカ軍兵士に娯楽と性的サービスを提供することになったことから、売春が盛んになっていったが、1975年のベトナム戦争終結後もタイ政府は、外貨獲得と売春婦の失職対策からアメリカ兵士に替わる国際観光客に対する性的娯楽産業を推進してきた。しかし、1990年代に入り、フェミニストや人権擁護団体などからタイのセックスツーリズムは批判されるようになり、HIV感染者／AIDS患者が急増したこともあり、批判はさらに高まっていった。そうした中で、タイ政府もタイ観光のイメージアップを余儀なくされ、今日では、質の高いリゾートツーリズムやタイ料理を堪能するグルメツーリズム、女性観光客をターゲットにしたエステやタイ古式マッサージなどを利用したヘルスツーリズムなどが強調されるようになってきている。

1970年代末以降、世界保健機関の政策やタイ国内における伝統医療復興運動等の影響により、タイ政府は「タイ式医療」を制度化し、タイ古式マッサージをその医療法のひとつに定めた¹。同時に、タイ政府は、観光をしながらタイ古式マッサージを受けたり、その資格を取得したりすることのできるヘルスツーリズムを、観光商品の中に加えるようになっていった。少なくともタイを訪れる日本人観光客は、寺院や遺跡めぐりに加え、安価で提供される古式マッサージを楽しむ場合が多い。タイへの日本人観光客はリピーターが多いことも知られているが、リピーターたちが次のステップとしてマッサージ師の資格取得をめざしたり、タイ料理を習得するために学校に通ったり、ムエタイを習ったりと、一歩進んだ「オーセンティック（真正な）なタイ」を体感し、その内在化を志向することも多い。このような観光客のニーズに応じて、古式マッサージ師の資格取得が観光目的のひとつとなってきたと思われる。

¹批判的医療人類学では、本来、近代医療の代替医療として、近代医療と対等であるべき伝統医療が、タイの伝統医療復興運動の中で近代医療の中に絡めとられてきたプロセスを批判する立場をとっている（飯田 2006）

2. 研究成果の報告

(1) 研究方法

バンコク都スクムウィット地区にある「ワットポー・マッサージスクール」に入校して、タイ古式マッサージ師の資格を取得しながら、マッサージの内容を習得するとともに、マッサージを学びに来る日本人（および外国人）にインタビューを試みた。また、当該テーマに関連する文献資料、画像資料、パンフレットなどの基礎的資料を収集した。

(2) 研究日程（2014年12月25日～2015年1月3日）

日付	滞在地	行動・調査内容
12月25日	福岡→バンコク	11:35 福岡空港発 Fukuoka→(タイ国際航空 649 便)→14:55 (タイ時間) バンコク着
12月26日	バンコク	9:00～12:00 (マッサージ学校) 13:00～16:00 (マッサージ学校) 16:00～19:00 (マッサージ学校)
12月27日	バンコク	9:00～12:00(マッサージ学校) 13:00～16:00 (マッサージ学校)
12月28日	バンコク	インタビューのまとめ、データ資料まとめ、マッサー ジ練習
12月29日	バンコク	9:00～12:00(マッサージ学校) 13:00～16:00 (マッサージ学校) 16:00～19:00 (マッサージ学校)
12月30日	バンコク	9:00～12:00 (マッサージ学校) 13:00～16:00 (マッサージ学校) 修了試験 (合格)
12月31日	バンコク	チュラーロンコーン大学ブックストアおよびアジアブッ クスにて資料収集
1月1日	バンコク	ワットポー見学 (古式マッサージ解剖図などの資料収集) バンコク市内のタイ古式マッサージ店「サクラマッサー ジ」で報告者が習得したマッサージとの比較およびイン タビュー調査
1月2日	バンコク	チュラーロンコーン大学文学部のチョムナード先生にタイ 古式マッサージに関するインタビュー調査
1月3日	バンコク→福岡	00:50 バンコク発→ (タイ国際航空 648 便) →8:00 福岡空港着

(3) 「ワットポー・マッサージスクール」の教授内容と戦略

「ワットポー・マッサージスクール」での教授内容と宣伝戦略を明らかにすることを目的として、写真でのスクール紹介と教授内容の紹介を行うこととする。

◆ワットポー・マッサージスクールの外観・教室



マッサージスクール外観
1・2階がマッサージ店
3階がマッサージスクール



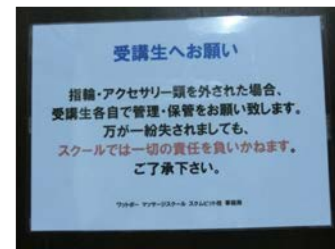
教室の様子、右奥上が仏棚



生徒用ロッカールーム



ロッカーの注意書き（日本語）



日本語の注意事項掲示物

◆「ワットポー・マッサージスクール」における1日のスケジュール

- ・朝の経文
- ・1時間目 9:00 ~12:00
- ・昼休み 12:00 ~13:00
- ・2時間目 13:00 ~16:00
- ・3時間目 16:00 ~19:00

1つのセッションが3時間で構成され、基本的には1日に3つのセッション計9時間の授業時間が設けられている。基本マッサージコースとフットマッサージコースは30時間受講しなければならない。1日6時間の5日コースが基本となるが、観光客の場合はタイに滞在できる日数が限られているため、臨機応変な対応が可能である。

◆朝の経文について

毎朝、授業を受ける前に唱える経文はパーリ語のマントラ的一种と言われ、これを唱えることで大自然と神々の力を受けられると信じられている。相手に良いマッサージを施すことができるように、マッサージを施す前に必ずこの経文を唱える。また、自分自身の精神を統一し、心を落ち着かせる行為でもある。あぐらをかいて座り、仏棚に向かって目を閉じ、手を合わせて一斉に下記の経文を唱える。

アラハンサンマー サブットパカワー プッターン パカワントン アピワーテーミー

サワーカートー パカワター タンモー タンモンワサーミ スパティパンノー パカワ
ター タンモー サンカンナマーミ

*シワカ・ゴマラッパ²に捧げる文

『ナモータサ パカワター アラハトー サンマー サンブタサ』(三回繰り返す)
オムナモー シワゴ シラサーアハン ガルニコー サパサッタナン オーサカ テイパ
マンタン プラパソー スリヤーチャンタン ゴーマラワットー パカセーシー ワン
ターミ パンティトー スメータトー サマナホーミ

*マッサージをする前に唱える文

『ナモータサ パカワター アラハトー サンマー サンブタサ』(三回繰り返す)
サハムティ サムハカトー セーマータン パタセーマーヤン サハニタンポー エーワ
ンエーヒー ナトーモートン プッコータークエン ヤ ルアン ルッ ローイハーイ
サワイ サワハーイ

*悪い気をもらわない為に唱える文

『ナモータサ パカワター アラハトー サンマー サンブタサ』(三回繰り返す)
プッタン パチャカーミ タンマン パチャカーミ サンパン パチャカーミ

教室に仏棚があることや、毎朝経文を唱えることから、ワット・ポーという仏教寺院附
属のマッサージスクールとしての特徴が表れていると言える。

◆古式マッサージの授業内容

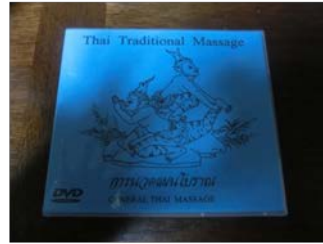
「ワットポー・マッサージスクール」に日本人の生徒が多い理由としては、この学校自
体が日本人を主たるターゲットとしていることによる。そのため、学校が日本人居住地区
に建てられており、日本語ホームページが開設されている。また、この学校で学んだ日本
人の口コミによって、次々と日本人の生徒が資格取得のために訪れている。

授業は、生徒同士が2人1組になって行われる。テキストが配られ、マッサージのイラ
ストと共にタイ語、英語、日本語、中国語、韓国語の5ヵ国語が記されている。テキスト
からこれらの言語を母語とする国からの客が多いことが分かる。テキストの他に冊子が配
られる。日本人であれば、日本語のみで書かれた冊子が渡され、講師とのやり取りを自分
でメモして覚える作業を繰り返す。講師は、日本語を話せるわけではないが、日本人客が
増えたため、マッサージを教えるのに最低限必要な単語は覚えているという。マッサージ
スクールに来ている人は、報告者が受講した4日間で延べ27名であった。内訳は日本人
が25名、韓国人が1名、イギリス人が1名である。観光などの一時滞在で来ている人が
ほとんどであるが、タイ在住で昼間は時間があるため、習い事感覚でレッスン日を予約
して1か月くらいかけて通っている人も含まれている。

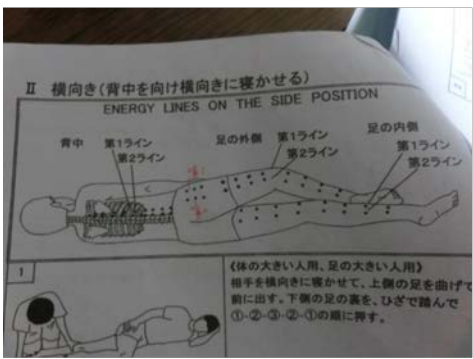
² タイ古式マッサージの宣教祖



左：5カ国語で表記されたテキスト
右：日本語のみで書かれた冊子



マッサージ勉強用 DVD（日本語版）



日本語冊子の内容



体のセン（筋）が示された図

(4) 報告者が習得した「タイ古式マッサージ」の内容

マッサージ全体の流れは、仰向け（足、腕、手、腹部）→横向き（足、背中、頭部、腕、足）→うつ伏せ（足、背中、腕、足）→仰向け（足、足の裏）→あぐら座り（肩、背中、首、頭部）→ストレッチ→フェイスマッサージ（頭部、顔、耳）→終了時のマッサージ（背中、足）の順に行う。各部位には第1ライン、第2ライン、（第3ライン）がある。ラインによってお尻を上げて体重をかけるところと、腕の力のみでマッサージすることがある。人により筋肉のつき方が違うため、個人個人に合わせてラインを確認し、正しい部位を押す必要がある。マッサージをする相手が不快に感じる股付近に指が触れないように、マッサージする際の手の向きや押し方が決まっており、これらもすべて資格取得試験の際のチェックポイントとなる。指だけでなく、腕、肘、膝、足の裏、かかとなどマッサージする側も全身を使ってマッサージを行うため、バランス感覚や体力が必要となる。お店で仕事としてマッサージをする際に、客の信頼を失わないよう、マッサージは全てスムーズな流れで行わなければならない。たとえ順番をとばしてしまっても、流れが滞らずスムーズに行えればよいとされる。タイ古式マッサージは、インドのアーユルヴェーダやヨガの要素を取り入れているところに特徴がある。その効果は、血流がよくなり、体が軽く感じられ、リフレッシュ感を味わえるところにあるため、客に気持ち良いと思ってもらえることが最重要事項である。

仰向けで行う腹部のマッサージには注意点がある。妊娠中、生理中、下痢の人には行っ

てはならず、食後 1 時間以内、手術後 2 年以内の場合にも行ってはいけない。そのため、腹部のマッサージはまず知識のみ学び、生徒が上記の注意事項に当てはまらなければ、先生がマッサージするという流れで行う。全 30 時間のうち 19 時間目からはテキストを見てはならないため、全ての流れを覚えなければならない。ただし 60 歳以上の人は試験の際にもテキストを見てよいという特別な計らいがなされている。

(5) 「ワットポー・マッサージスクール」におけるインタビュー調査の内容

◆講師へのインタビュー

*フットマッサージの講師（女性）

コーラート（=ナコンラチャシマー県）出身で、このワットポー・マッサージ学校では 7～8 年教えている。

*基本コースのマッサージの講師（女性）

バンコクの北西に隣接するノンタナブリー県出身。学歴がなかったため手に職をつけたいと思い、マッサージ師になった。ワットポー寺院で 21 年間、ワットポー・マッサージ学校スクンビット校で 8 年間教えている。簡単な日本語を話すことができるが、英語圏からの生徒もいるため、現在、英語も勉強している。

◆古式マッサージの受講生徒へのインタビュー

*日本人女性（30代～40代ぐらい）

夫が在タイ日本企業に勤務しており、子どもを連れてタイに 3 年住んでいる。夫が 4 月に日本の仕事に戻るため、もうすぐ帰国する予定である。夫は勤務地が遠いため、週末のみバンコクに帰ってくる。子どもは平日の昼は日本人学校に通っている。平日の昼間は 1 人で時間があるため、週に 1～2 回習い事のような感覚で通っている。タイ語はほとんど話せない。

*日本人男性（66 歳）

よくインドに行き、短いときで 1 か月、長いときには 3～4 か月、滞在することが多い。昔はインドに行く際にバンコクでチケットを買ったほうが安かったため、バンコクを経由することが多かった。今回もインドに行くついでに短期間で資格が取れるならば取ってみようかと思い、5 日コースで基本マッサージコースを受講することにしたという。今回はインドでは 1 か月滞在の予定だそう。タイ語は全く話せない。

*日本人女性（熊本市出身 30 代）

転職を考えて、マッサージの資格を取りに来ている。チェンマイのチェンマイ式マッサージ、フットマッサージの資格を取得済みである。1 か月マッサージ学校で寮に泊まり込みで取得した。チェンマイでは、寮費・マッサージ学校代・食費 1 か月分込みで約 10 万円ほどだった。マッサージ師の資格を取って日本でマッサージ師として働くつもりだ。ワットポーで資格を取った後は北タイおよびカンチャナブリーに向かうという。マッサージ資格を取ることが来タイの主目的であるが、ついでに他の地域を観光するのだという。



日本人受講生向けの広告 2



日本人受講生に向けた販売広告 3

マッサージスクールも受講生のニーズに応えようとしている。従業員休憩室の机の上に日本語を覚えるための表が貼ってあったことや、日本人向けのポスターやチラシが掲示してあることから、日本人客が多いことや日本人を対象とした観光の戦略が見て取れる。

タイ古式マッサージの本場タイでマッサージ資格が短期間で取れることに魅力を感じた人々がタイに来て、スクールの合間や資格を取った後にタイを観光していることが分かる。インタビューから見て取れることは、観光のついでにマッサージ資格を取るのではなく、マッサージ資格取得を主たる目的として来タイし、ついでに観光するケースが多いということである。リピーターが観光の次のステップとして「タイの体感」を求める場合と、マッサージ資格取得を目的として来タイし、観光をすることでタイの魅力にはまる場合もある。報告者は今回4回目の来タイとなるが、初めの3回は観光を主目的としていた。今回マッサージスクールに通いマッサージを習うことで、現地の人たちとの接触時間と回数が増えた。この面でも観光だけの時に比べ、「オーセンティックなタイ」が味わえたように思う。一顧客としてマッサージを受けるときとは違い、現地の人たちに近づけるという点にも古式マッサージ師の資格取得を行う中での体験型ヘルスツーリズムに魅力を感じた。

また、上記インタビュー結果にもみられるように、近年、在タイ日本企業の駐在員の家族としてタイに長期滞在する人や、タイのライフスタイルに惹かれ新しい観光の形態としてのロングステイなどの滞在型観光をする人も増加してきており、こうした人たちの中にも「古式マッサージ」の資格取得をめざす人たちが出てきている。退職者や年金生活者の第2の人生をターゲットにしたロングステイ体験ツアーや下見ツアーなどが企画されるようになってくる中で、タイでは高齢者のケアとロングステイ体験とを関連させ、新たなヘルスツーリズムも展開されるようになってきている。今後の可能性として古式マッサージ資

格取得と滞在型観光とが結びついていく可能性も考えられるだろう。

おわりに——タイ観光とタイ古式マッサージ

タイへの観光客はリピーターが多く、彼らの中には、タイらしさを求める人々が増えていく。ホストとして観光客を迎える側も、その求めに応じて様々な観光戦略を展開しようとしている。そのコンテンツとして、「1. タイの観光と「古式マッサージ」の位置づけ」で述べたとおり、タイ古式マッサージをはじめ、タイ料理、ムエタイ（タイ式ボクシング）などがあり、「オーセンティックなタイ」を体感できる機会が増加している。日本ではマッサージやエステを受けると非常に高価であるが、タイでは比較的安価で気軽に受けることができる。これに日本における健康ブームが手伝って、タイ古式マッサージは数あるコンテンツの中でも人気のあるもののひとつとなっており、観光のついでに資格を取ろうとする人や資格取得を目的に来タイし、空いた時間に観光地をめぐる人などが増加してきた。タイ観光のあり方が多様化していることで、あらゆる角度からタイへの興味をひくことにつながっていることは確実だと思われる。

（注）報告書における写真は、全て報告者が撮影したものである。

<参考文献>

- 綾部恒雄（編）『文化人類学最新術語 100』、弘文堂 2002 年。
綾部恒雄（編）『文化人類学 20 の理論』、弘文堂 2006 年。
飯田淳子 『タイ・マッサージの民族誌』、明石書店 2006 年。
大槻一博 『タイ・マッサージスクールーワットポースタイル』、ジャパン出版局 2005 年。
小曾木航平 「癒しと健康のグローバリゼーションータイ・マッサージの観光医療化に着目して」(早稲田大学大学院スポーツ科学研究科提出博士論文)、早稲田大学 2013 年。
小曾木航平 「伝統的健康法はいかにしてグローバルな健康文化となるか？：外国人向けタイ・マッサージ学校の役割に着目して」、『体育学研究』59 (1)、83-101 ページ 2014 年。
R. ゴールド 『タイ古式マッサージータイ伝統医療の理論とテクニック』(医道の日本社編集部訳)、医道の日本社編集部 2000 年。
V. L. スミス（編）『観光・リゾート開発の人類学ーホスト&ゲスト論でみる地域文化の対応』(三村浩史 監訳)、勁草書房、1991 年。
山下晋司、船曳建夫（編）『文化人類学キーワード (改訂版)』、有斐閣、1997 年。